

変貌を遂げる欧州自転車展示会

最近、いくつかの欧州自転車展示会について、開催中止や他展との統合等、様々な変化が生じてきているため、欧州主要国の展示会の状況について最近の動向を下記の通り報告する。

①5年で幕を閉じる ISPO BIKE…ドイツ

現在、名実ともに世界最大の自転車展示会は「ユーロバイク展 (EUROBIKE)」(2013 年出展者 52 カ国 1,280 社、ビジネス来場者 111 カ国 45,200 名、一般来場者 20,400 名、出展面積 100,000 m²)といわれているが、かつてドイツではケルン展 (IFMA) という欧州でも随一の二輪車展があった。EUROBIKE も 1992 年開始当初は小規模であったが、年々出展者が集つまるようになる一方で、IFMA は自転車展とオートバイ展が分離し、自転車展は年々規模が縮小し、IFMA は 2008 年についに終了した。

その後、IFMA の主要出展者であった二輪車共同購入組合 (ZEG) の意向も踏まえ、2009 年よりミュンヘンで EXPO BIKE が開始され、2011 年からは ISPO BIKE に模様替えし開催されてきた。しかしながら、ドイツにおいては現在の EUROBIKE は競争相手としてはあまりにも強大であり、ISPO BIKE は 7 月という開催時期の悪さが当初から指摘され、出展者数等、規模的には伸び悩んでいた。(2013 年 ISPO BIKE: 出展者 209 社、ビジネス来場者 40 カ国 5,500 名) 本年の展示会終了直後は 2014 年も開催予定とされていたが、それから 2 カ月後、主催者メッセミュンヘンは ISPO BIKE を来年は開催しないことを決定し、同展はわずか 5 年間で幕を閉じることになった。



f. re. e2010 の様子 (出展者は小売店が主体)

メッセミュンヘンでは、その代わりに毎年2月下旬ごろに開催している消費者向けの旅行・レジャー展「f.re.e」の自転車部門に統合し、また、ISPO 事務局による各種出展者サポートは引き続き行なう意向であることを併せて発表した。2010年にf.re.eを訪れたが、当時の同展の様子は、ドイツ各地域で冬季に頻繁に開催される消費者向けのレジャー展のひとつであり、自転車関連の出展者は地域の大型小売店等が主であった。ISPO BIKEに比べれば開催規模は大きく多くの来場者数も見込めるが、海外の自転車企業が出展するビジネスの場とは言い難い。メッセミュンヘンでは今後、自転車に関してはビジネスショーではなく消費者向けの展示会に注力すると述べており、ISPO BIKEの最大出展者ZEGが、IFMA終了後に代替展示会を望んだように、今回も別の展示会開催を模索するのか、または会員向け内覧会に集中するのか、これからのZEGの動向が大変注目される。

②競合から共存へ…イタリア、フランス

かつてイタリアでは、上記IFMAと双璧をなす規模の二輪車展「ミラノ展（EICMA）」が長らく開催されてきたが、2000年代以降、EICMAは自転車とオートバイ部門に分かれ自転車単独で9月開催となったり、また11月の二輪車展に戻ったりと、開催時期や内容に混乱が続き、自転車展は年々規模が縮小した。そのため、イタリア二輪車工業会（ANCMA）の展示会運営に不満を持つ地域の自転車企業が中心となり、彼らの地元パドバで別の展示会EXPO BICI（2012年出展者500社、来場者47,000名、展示面積25,000㎡、試乗エリア15,000㎡）が2008年より開催され年々規模を拡大してきた。両者は時には全く同じ週末に開催し、ANCMAが開催地をミラノからパドバ近郊のペローナに移す等、激しく競い合う状態にあったが、本年よりEXPO BICI主催者とANCMAは協力することに合意し、国際イタリア自転車展と称して一つに統合した自転車展として、本年9月21～23日にかけてパドバで開催された。現在のイタリア国内の厳しい経済状況から見て、2つの展示会がいがみ合う状態は同国自転車企業にとっては不幸であり、同国自転車産業界はようやく混乱から脱したと言える。



2009年は同じ週末に開催された（左：EXPOBICI、右：EICMA）

イタリアで混乱が長引いた一方でフランスでは、1898年に開始され長い歴史を持つ「パリ国際

二輪車展」が隔年ごとに開催されてきたが、リーマンショック後の金融危機時に一度オートバイ部門が急遽キャンセルになる等、混乱を見せたが自転車展開催はかろうじて維持されてきた。そのような頃にリヨンで別の自転車展（R' Bike）が開催されるようになり、一時、パリとリヨンで自転車展が競合する状態となったが、両者はいち早くそれぞれ交代で開催することで合意し、それ以降、2010年にリヨン、2011年にパリでと交互に開催されるようになった。因みに2011年パリ国際自転車展は来場者70,000名を数え、2013年同展では9月13～16日（16日はビジネスデー）に、出展者179社457ブランドによりパリで開催され、新たにBH Bikes、BMC、Felt、Winora、Hutchinson等が参加しており、主催者の2013年報告が待たれる。

③共催による相乗効果…オランダ

オランダでは、1月にアムステルダムにて自転車小売店向けのシティ車やEPAC中心の「FietsVAK」、10月にユトレヒトで主に消費者を対象としたMTB、ロードバイク等のスポーツ車中心の「Bike Motion Benelux」の2つの展示会が開催され、対象車種により一種の住み別けができていた。同国ではかつて3月に自転車展示会「ライ展」が開催されていた。しかし、同展の終焉後、自転車小売店向けの商談の場が必要とされ、毎年1月に開催されるようになったのがFietsVAKである。しばらくの間はロスマレンというオランダ中部の小さな町で開催され、当初は小規模であったが、オランダにおけるEPACブームに後押しされ、年々規模を拡大した。2012年にはオランダ車両工業会（RAI）の地元アムステルダムに会場を移し盛大に開催されたものの、同国経済状況の低下に伴う自転車市場の低迷により、2013年の来場者が2割も減少する結果となった。

そこでRAIでは、2014年3月に第10回目となる消費者向けレジャー展「The Bike&Hike」（2013年来場者数22,600名）との共催形式とし、従来の自転車小売店向けのビジネスショーから対象を消費者まで広げ、規模拡大による相乗効果を狙うこととなった。現在、まだEPAC販売は堅調とはいえ、市場全体では停滞状態にあるオランダ自転車市場にとって、この判断の成否は来年春に明らかとなる。新生「The Bike&Hike-FietsVAK」は展示面積33,000㎡に拡大し、2014年3月1～4日間（3,4日はビジネスデー）の開催予定である。



FietsVAK2012



BIKE BRN02009

④中東欧の中心地…チェコ共和国

近年、チェコ共和国は中東欧地域における自転車産業の中心に位置するとも見られており、同国第2の都市のブルノで1998年から毎年開かれる自転車展「BIKE BRNO」（2012年出展者15カ国150社、来場者数26カ国38,478名）は中東欧地域を代表する自転車展である。同国には地元スポーツ車ブランドのAuthor、Superior、4Ever等もあり、従来からサイクリングが人気で、MTBを中心にスポーツ車の国内需要も高い。しかしながら、本年11月に第16回目の開催予定だったBike Brnoは開催直前の9月に急遽開催中止が決定された。同展と毎年併催される「SPORT Life」にてBMX等の自転車関連催事が一部引き継がれるが、2007年、2009年と同展を訪れた印象では、やはり自転車展が催事全体の要であり、それが欠けることは大きなマイナス要因と思われる。同展主催者によると、近年の自転車業界における新車発注サイクルの変化、新たな流通形態の出現等により、展示会の開催時期と出展者である自転車企業の需要が合わなくなってきたことを中止の理由として述べているが、長引く欧州の経済不況の影響が根底にあることは想像に難くない。なお、主催者は将来に同展を復活させたいとも述べているが、その先行きは欧州の経済動向同様に不透明である。

以 上

参考：2013年 ISPO BIKE プレスリリース No.8 及びNo.9

2013年 ExpoBici プレスリリース

2013年9月パリ国際自転車展プレスリリース

2013年6月20日付 Fiets en Wandelbeurs ニュースレター

第10回 Fiets en Wandelbeurs 2014年出展案内

2013年 BVV Trade Fairs Brno; Bike Brno プレスリリース

2012年 BIKE BRNO 報告書